



日山の西側斜面に散乱する花こう岩の岩塊流。  
岩塊の形は、ほとんど角ばっている。雑木林  
の中にも無数の岩塊が見られる。

塊が、あたかも墓石のように立っているのが目につく。このような石の集り方を露岩とよんでいる。日山の中腹から頂上にかけてさまざまな規模の露岩を見ることができる。さらに山麓のところには、同じ花崗岩の岩塊が、ごろごろと一面にちらばっているところがある。このような岩塊群を岩塊流とよんでいる。この岩塊流も、分水界の山麓に限って広く分布しているのである。この岩塊流は、花崗岩の岩塊と泥とがいっしょになって、山頂部や

中腹から麓に向かって流れくだったためできたと考えられている。この岩塊流の上に、ふとんをかぶせたように安達太良山の噴火のときに積った火山灰が厚くのっていることがある。そのようなことから、岩塊流の流れたのは、いまから数万年か数十万年前だろうと推定される。さきにふれたように、頂上付近の花崗岩に無数の節理ができていることが、岩



〔岩塊流と火山灰層—川口付近—〕  
ゴツゴツしているのが花こう岩の岩塊流。その上に被っている白っぽい地層が、数万年前安達太良火山の噴火のさいに岩塊流の上に積った火山灰